

平成24年7月2日

# 平成24年度第1回いしのまき水辺の 緑のpromenade計画懇談会記録

いしのまき水辺の緑のpromenade計画  
懇談会事務局（石巻市建設部河川港湾室）

# 平成24年度 第1回 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画

## 懇談会 記録

### 【会議概要】

開催日時： 平成24年7月2日（月）午前10時30分～午後12時

開催場所： 石巻市役所 4F 庁議室

#### 《懇談会出席者》

委員長	石巻市長	亀山 紘
副委員長	東北学院大学 経営学部 教授	斎藤 善之
委員	石巻専修大学 経営学科 特任教授	清水 義春
委員	石巻千石船の会 会長	邊見 清二
委員	母なる北上川を愛する女性の会 会長	毛利 スミ子
オブザーバー	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所 所長	佐藤 克英
オブザーバー	宮城県東部地方振興事務所 地方振興部 部長	佐々木 靖彦
オブザーバー	宮城県東部土木事務所 所長	門 傳 淳
オブザーバー	宮城県石巻港湾事務所 所長	相澤 義光
事務局長	石巻市建設部 参事兼河川港湾室 室長	木村 博英
事務局員	石巻市建設部 河川港湾室 主査	千葉 教正
石巻市 建設部	部長	阿部 善弘
石巻市 建設部	次長	宮本 正行
石巻市 建設部	河川港湾室 室長補佐	馬場 農利
石巻市 建設部	河川港湾室 主任主事	及川 英明

#### 《 議 題 》

- (1) 懇談会について
- (2) プロムナード計画策定の経緯と概要について
- (3) 震災後の課題について
  - ①旧北上川の堤防整備について
  - ②状況変化に伴う現計画見直しの必要性について
- (4) 意見交換（自由討議）
- (5) 今後の懇談会の進め方について

## 【議事録】

午前 10 時 30 分 開会

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） ただ今から、平成24年度、第1回いしのまき水辺の緑のプロムナード計画懇談会を開催いたします。私、事務局を務めます、石巻市建設部木村と申します。

まず始めに、市長からご挨拶申し上げます。

○亀山紘石巻市長 おはようございます。

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画、これは実は、平成22年に始まりまして、平成23年の2月に策定しました。

しかし、その後の平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、河川も港湾も漁港も大きな被害を受けました。

もちろん何よりも残念なことは、多くの犠牲者がこの地域で出たということでございます。そういう意味で私共としては、今後この教訓に基づいて、人の命はしっかり守っていこう、という想いがあります。

人の命を守る中で、いかに水辺空間を大事にしていくか、そして、今後建設が進むであろう堤防については、市民の皆さんが、水辺空間・水辺に親しめるような堤防の整備を行っていくことが必要であると思っています。

水辺の緑のプロムナード計画は、北上川と石巻湾の水辺の理を活かして栄えた石巻港を基礎として、石巻が発展していったことを背景にしています。

西暦1623年、川村孫兵衛が北上川改修工事を行ったことを契機に石巻が大いに栄えました。

江戸時代には、江戸に、江戸の米の半分を石巻港から積み出していました。

いわば宮城の、伊達家の経済的拠点になっていました。

そういった歴史をしっかり生かした、その歴史をつないでいくというものが、ということで始まっています。

今後、市民・観光客が気軽に水辺に集い、街が賑わい、人々が憩い楽しみ、そして、将来を担う子供たちが、故郷石巻を学ぶことが出来る、石巻らしい水辺を創出していきたいと思っております。

現行のプロムナード計画は、平成23年の2月に策定しましたが、この震災を踏まえて、見直しが必要であるということで、改めて、これまでプロムナード計画に係って頂いた方々に委員になって頂いて、見直しを図っていくということにさせて頂きたいと思っております。

委員の方々、オブザーバーに参加して頂いております、関係機関の皆様には、どうぞ宜しくご指導をお願いしたいと思っております。

これから、旧北上川の堤防の整備が始まってくると思いますので、そういった復旧に遅れることなく、実現に向けた取り組みにしていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

委員の皆さん、オブザーバーの皆さんの、忌憚のないご意見、活発なご意見を重ねてお願いいたしますして、私からの挨拶とさせていただきます。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 事務局の方から、懇談会の皆様を紹介いたします。

以下委員紹介。

以下オブザーバー紹介。

※宮城県東部地方振興事務所所長代理として、宮城県東部地方振興事務所地方振興部長佐々木靖彦様。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 配布資料の確認。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 続きまして、本懇談会の設置要綱について事務局より説明します。

○千葉教正懇談会事務局員（石巻市建設部河川港湾室主査） 設置要綱の説明。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 以上が設置要綱となっております。

続きまして、懇談会設置要綱第5条の規定により、会長及び副会長を選出します。

本日は、当初の計画を策定した当時の懇談会の議長でありました亀山市長に、仮の議長をお願いし、会長、副会長を選出して頂きまして、引き続き議事の進行に続きたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） では、市長、宜しくお願いいたします。

○亀山紘仮議長（石巻市長） それでは、仮議長を務めさせていただきます。

要綱第5条、懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める、となっておりますが、選出について、どのように進めたらよいでしょうか。

特に無ければ、事務局案がありますので事務局案をお聞きしてよいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、事務局から事務局案についてお知らせ頂きたいと思っております。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 事務局よりご提案いたします。

この度のプロムナード計画の懇談会につきましては、平成23年2月に策定した、現計画の策定

の経緯もありますので、前回と同様に、会長には市長、副会長には東北学院大学の斎藤教授にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○亀山紘彦議長（石巻市長） ただいま事務局案が出されましたが、いかがでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○亀山紘彦議長（石巻市長） それでは会長には小職、副会長には東北学院大学経営学部教授斎藤善之委員にお願いしたいと思います。

○亀山紘彦議長 それでは、仮議長を終わりにして、改めまして、議長につかさせていただきます。早速、次第の3、議事に入ります。

「(1) 懇談会について」事務局より説明をお願いします。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 平成23年2月策定のプロムナード計画懇談会について、諸所の周辺の状況の変化などを踏まえて、改めて検討・見直しを図りたいということで考えています。この懇談会の運営につきまして、説明させていただきます。

○千葉教正懇談会事務局員（石巻市建設部河川港湾室主査） 運営要領（案）の資料説明。

○亀山紘彦議長 ただいま事務局から説明がありましたが、情報公開の運営要領について、ご質問ありましたら、お願いします。

原則公開となります。できるだけ懇談会の内容をホームページ等に掲載して、市民のみなさまにお知らせするということですが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○亀山紘彦議長 意見がないようなので、この(1) 懇談会について、情報公開の運営要領については、提案の通り定めることにご異議はございませんでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○亀山紘彦議長 異議なしと認め、原案の通り定めることとします。

次に、(2) プロムナード計画策定の経緯と概要について事務局より説明をお願いします。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 資料1の説明。

○亀山紘彦議長 プロムナード計画策定の経緯と概要について説明がありましたが、ご質問がありましたら、お願い致します。

これは恐らく、ルートにしても、拠点にしても変わっていかざるを得ないと思います。

特に、被災した沿岸部・河川部については、考えていかなければならないと思います。

例えば、ルート①雲雀野海岸・日和大橋、拠点の石巻港臨港緑地に関しては、出来ればこれはシンボル公園にしていくなど、そういった変更があります。

今後事務局としては、ここで意見交換をしながら、変更していくということで良いのでしょうか。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） はい。後ほど、現計画の課題としてもご紹介するつもりであります。

状況が変わったこともうけて、プロムナード計画のルートの見直しや、新たな設定について、ご意見頂きたいと考えています。

○亀山紘議長 それはこの後の意見交換で、でよろしいのでしょうか。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） はい。まずは、状況の変化について整理させていただくことと、それに対するご意見を頂きたいと考えています。

○亀山紘議長 何かご意見ございますか。

経緯と概要なので、特に質問がないようなので、次に進めさせていただきます。

次に、(3) 震災後の課題について、情報提供をお願いします。

①旧北上川の堤防整備については、国土交通省北上川下流河川事務所佐藤所長さんをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○佐藤克英オブザーバー 資料説明。

○亀山紘議長 ありがとうございます。

堤防整備について、ご質問は意見交換の際に合わせてお願いいたします。

次に、②状況変化に伴う、現計画見直しの必要性について事務局より説明をお願いします。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 資料2の説明。

○亀山紘議長 ありがとうございます。

事務局からいろいろ課題が出てまいりました。これまでの説明を踏まえて、意見交換をしていきたいと思います。

資料を見るのは今回が初めてなので、踏み込んだ議論は今後になると思いますが、今まで説明を頂いた各機関の皆さんの内容に対する質問を始め、ご意見を頂きたいと思います。

今回は、フリートalkingといった形で進めさせて頂いて、次回以降はある程度絞って、懇談をしていきたいと思います。どうぞいろいろなご意見ををお願いします。

○斎藤善之委員 感想からいきます。

平成 23 年 2 月にこのプロムナード計画ができて、夢のある良い計画ができたなど感じて、実現を楽しみにしていました。

時には協力もしたいなどと色々思っていました。3月の地震によって、その計画については実現は無理なのかなと一時思っていました。

今日改めて会議を招集して頂き、ご説明頂いたが、この計画自体が放棄されずに、色々な形で継

続する部分があり、活かして頂けるということを知って、かなり安堵しました。

見直ししていかねばならない部分があるのは当然のことで、これも踏まえて再計画を作るといっても当然考えていくべきだが、基本的には、前の計画のいいところ、実現可能なところは、積極的に実現に向けて進めてもらい、どこをどうしたらいいかを議論するということがよいと思います。

震災という大変な状況乗り越えながら、この計画を進めていくという姿勢を示して頂いて、ありがたく、うれしく感じました。

全体的な計画について、私も大分歩きながら前の計画を作ったので愛着もあるのですが、①、②、③のルート、雲雀野海岸や拠点Bの文化センター周辺、拠点Eの旧漁港あたりについては、大きな開発計画と同時進行になるので、当面は我々が前に描いていたプランは、しばらくは成り行きを見守るのがよいと思います。

どういう計画が出てくるのか見えて来ないと、その上にリバーサイド的な部分を付け加えていくという点からいうと、当面フリーズさせる。これは議論しても仕方がない。その部分については、大きな開発計画がみえてくると共に、その上で、この計画をどうするのかを議論していかないと、順番としては難しいのかな、という感じを今日受けました。

ポイントになるのはかつてのプランでいう、拠点C、拠点D。

ここは、今回一番再検討する必要があると思う。特に拠点Dは、今回関心を持っている。

拠点Dは中瀬だが、今回両岸に大規模な堤防が作られる。これは防災上必要であると証明されていると感じているので。

それを踏まえて計画としましては、ご指摘があるように、水辺との距離が大分各地区で大きくなり、見えなくなるのは仕方がない。

であれば中瀬は逆に親水性を持たせた空間として整備する。

中瀬は居住しないことが前提となるそうなので、観光客や市民が、水辺に親しむところとして整備を考えていく。

そこに、かなり喪失してしまった石巻の歴史や文化をシンボリックに体感したり、市民がそこで共有したり、学べるようなものをここに集約していくことが出来ればと思う。

ここには石ノ森萬画館があり、ハリストス正教会も存続ということになるので、観光客もそこを目当てにやってくるのが当然考えられる。

それ以外が単なる芝生公園では物悲しい印象があって、全体としては公園でよいと思うのだが、歴史・文化的なカラー、性格を滲ませて、そこにいくと、石巻がかつてこういった非常に歴史が深い町であることが、いろんな意味で分かるような風にしていくのがいいと思う。

前のプロムナードの時に、ここに千石船のモニュメントのようなものを作ってみてはどうか、というプランを雑談で話していたことを思い出すのですが、シンボリックなものをここに考えていく。そこを市民が共同で共に作っていく。ワークショップ的なことをやりながら、自分達の歴史を改めて学んだり感じたりしながら、精神的な復興という面で、シンボリックな歴史文化を保存・活用するような空間として構想できないかと、強く感じました。

向かい側の拠点 C の旧丸光デパートのところは、商業的な施設として大分構想があるような話なので、そこと川を挟んで向かい合いながら、石巻の趣のある空間というものを、前のプラン以上に構想していくというのはどうだろうか。

拠点 F とか G とか H は、旧プランがそのまま実現を推進されるということなので、それも大変望ましいことかなと思う。

北上運河から上流域と結節点・中間地点である拠点 C・D について、集中的に、現時点でも我々が構想することが比較的可能な部分なのではないかと感じました。

拠点 A、B、E は、今のところは大規模な開発計画の推移を見ながら、プランが出てきた段階で改めて考える。

プロセスをただちに取り掛かるものと、そのまま実行するものと、修正しながら構想するものと、フリーズしていくもの、という風に分けていったらどうかと感じました。

**○亀山紘議長** ありがとうございます。

今ご意見を頂きました中瀬の拠点の使い方、今後も議論していきたいと思います。

大規模な工事が始まるので、一部フリーズするという事はあると思いますが、私共としましては、できるだけ、堤防を活かしたまちづくりをしたいという想いです。

本当に堤防を活かせるのかどうかというのは、このプロムナード計画の中でまた提案していただくことも必要だと思っています。

例えば、今日の説明の中で私が一番気になっているのは、一番水辺に親しむ場所、通路。今の計画だとここがずっと同じ幅で通路になっている。これでは散策路ではない。

散策路なら、もう少し変化をもたせる必要がある。

例えば、そういうものを早く提案していただいて、プロムナードとするために、単なる幅の狭い通路ではなく、もうすこし変化をもたせて、あるところはふくらみを持たせるとか、そういった提案をしていくというのが、この会だと思っていますので、是非ご意見いただきたいと思っています。

**○邊見清二委員** 気がかりにしていたことがありまして、プロムナードの策定計画をまたつくって、お蔵入りにならないか、実現できるのか、計画倒れにならないか等を懸念したんですけれども。

復興計画のなかで石巻市が思い描いているのは、旧北上川や中心市街地周辺をエリアとする復興



計画をどうするのかという、市の基本的な考え方があって、その中からこういう計画が出てくるのかなと思っているのですが、いずれ、堤防が出来、道路が出来、市街地が整備されて、動き出したときに、それに合わせて、私たちのプランづくりっていうのは、プランが先があって、それに向けて復興計画が後追いでくるものなのではないでしょうか。このプランは大きなデザイン画のようなものだと思うのですが、実現するのか。具体性を持てるのかが気がかりでした。

今日初めて見直しを見ましたが、基本的には非常に魅力的なプランが新しく盛り込まれているということで、非常に興味をもって見させていただいたので、内容を改めて自身で検討したいと思いました。

堤防を活かしたプランを策定といった時に、7. 2 mの海岸防潮堤とか4. 5 m河川堤防の高さの数値の話は聞いたが、出来ればモデル堤防の7. 2 mは、フラットなところを作るとどのような感じになるのか。それを実感・体感できる、先進地があれば、名取市や岩沼市など工事が始まっているところがあるかもしれないが、出来たら参考にしたい。

7. 2 mを実感できる場所をいつかご案内頂きたいと思っている。

プロムナードの基本になるが、市街地を捉える中で、大きく石巻の公園、昔の石巻港、今は内港としての石巻港が存在する訳だが、両側を含めて全地域、旧市街地も、大きな石巻港の公園だ、という意識で、そこで持っている歴史や文化や産業などを活かした町づくりをしていくことが、この町の再生に、蛇田地区の商業地域との違いを明確にして、石巻が故郷になりえるような町づくりに繋がるのではないかと考えた。続きは、また次回お話しさせて頂きたいと思います。

○**亀山紘議長** この資料に基づいて、改めて検討して頂いて、色々なご意見を頂きたいと思います。

石巻港全体が公園のようなイメージでという意見がありました。

これから、川を活かしていくという時に、右岸だけの河川堤防を考えるだけではなく、対岸の左岸の景観も考えなくてはいけない。

堤防を築くことは、命を守るためにはどうしても必要だということで、建設をしていただくということで今進めています。水辺空間を新たに作る、新しい石巻港としての景観をどのように考えるか、ぜひ我々市民サイドでしっかり考えて作っていかないと、単なる人と川とを切り離す堤防、隔離する堤防となってしまいます。

北上川を市民が親しめる空間として作っていくという姿勢でやっていきたいと思っています。

○**清水義春委員** 夢のある素晴らしいプランだと思いました。

私はたまたま、大変大きな地震、津波があったところ、北海道の奥尻島に、今年の1月に行ってきました。

地震、津波があったことは、今から19年も前の話だが、未だに生々しいものでした。

奥尻島では、11.5mのコンクリート堤防を作りましたが、まるで要塞のようでした。

市街地に関しては、大体6.6m嵩上げをして、盛土をして、道路や居住地を作ったという地区があります。

島の先端部には公園を作り、そこに立派な博物館も作ってありましたが、19年も経つと一部が壊れていたりして、徐々に震災の記憶が薄れ、関心も無くなるのかな、という感じがしました。それを踏まえ、今日のお話の中で、例えば南浜地区、ここに公園を作るという計画があると、新聞でも拝見しましたが、官主導で物事を進めると、長続きしないのではないかと。

市民と一緒に関わって、公園をどういう風にイメージするのか。

そこに仮に博物館を作るとしたら、石巻に住んでいる人達がいつも出入り出来るような内容を持った博物館でないといけないと思う。

震災の記憶を、未来永劫、何十年も何百年も伝えていくということを前提とした公園が必要だと思います。

最近提案があるジオパーク構想もひとつの方法。

また、その地区全体、被災地も含めたエコミュージアム構想という方法もある。

拠点としてそういう公園を作ることも含めて、市民と一緒にやってつくることが大前提という風に思いました。

河川堤防のイメージに関していうと、例えば利根川や荒川の堤防などと同じように、ちょっとした道路があり、芝生や雑草で堤防が覆われている。

これはこれでいいのかもしれないが、いずれ7.数メートルのという堤防ができるので、海も川も見えない。

ここはもっと工夫する必要がある。幅を広くあるいは狭くするのも良いと思うし、植栽を重点的に考える。今回の地震で驚いたこととして、いわきの新舞小浜では、松林だけでなく、その土地のいろんな植物と一緒に植栽している。そのため、波が遠くまで行かなかった。そういうやり方もあるなど。

この堤防にも、松以外の、石巻の植生を考えながら、植物を植えて、堤防は緑豊かにする、というののもあってもよいのではないかと思います。

防災という観点からしても、植物は大事だと思います。

プロムナード計画なら、単なる堤防ではなく、そこに色々な変化をつけて、散歩ができるというところがあっても良いと思う。

サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジのところに大きな公園があるが、海の近くの砂浜だったところにいろんな木を植えて、大森林地帯となっている。

そこを散歩する。憩いの場所として非常に良くなっている。そういう形が取れるかどうかは別としても、植栽は前提として考える必要があると思いました。

斎藤先生と同じく、拠点 D は関心があります。

復興計画では要するに堤防は作らないということですね。

それはそれで仕方がないかもしれませんが、ただここは観光という観点からすれば、ワンストップサービスで出来るところだと思います。つまり、石巻の産業を全部集める。例えば、加工場・かまぼこ屋等を全部集め、そこにくと石巻の産業がすべて分かるというものを作ってもらいたいと前から思っていました。

ハリストス正教会は、私は現状のものを保存するべきだということを主張していましたが、残念ながら認められなかった。

あれは一旦解体して作り直すのでしょうか。私はあのままが良いと思います。何故かという、あれは奇跡だと思います。

岡田劇場も無くなり、建物がみんな流されてあの教会だけが残った。あれを補強して保存する。非常に大きな観光の目玉になる。ヨーロッパにあるようなキリスト教の聖地として、現代の奇跡として、考えても良いのではないかと思っていました。もう一度立派に作り直すのではなく、今のまま、保存する方法を考えてもらいたいと思っていました。

もう一つ、宮古や釜石の例をみても、技術的なことは良くわかりませんが、コンクリートの堤防はあまり用をなさなかつたと思います。

繰り返しますが、植栽を含めて、もっとみんなが親しめるような空間を考えていただきたいと思っています。

○亀山紘議長 ありがとうございます。

堤防に植栽をという意見、その他もありましたが、堤防に植栽は可能なのですか。

○佐藤克英オブザーバー 堤防の本体といいますか、堤防の機能すべき断面の中に木を植えると、木がなぎ倒された時に、堤防の決壊箇所になる恐れがあるので、法令で禁じられています。

堤防の断面を外側にひろげて、土の盛った部分に木を植える。

例えば、全国で行われております、桜堤のような方法はあります。

基本断面のところだけが融通が利かないのですが、色々な変化をつけながら、そこに土を乗せることが出来れば、そういった道が出てくる可能性もあると思います。

○亀山紘議長 おもしろいと思います。石巻のサツキやツツジを植えたり、変化をもたせると、散策していても非常に楽しくなると思います。工夫によっては可能になるわけですね。

○佐藤克英オブザーバー はい。

○毛利スミ子委員 私は、やっとプロムナードで堤防の高さが4.1mと決められて、始まるんだなど安心したところでした。

3月11日にあんなに大きな津波がくるとは思っていなかった。

今回のプロムナードの計画を見た時に、皆やっと堤防の必要性を感じてきているのだなど、アンケートを見て分かりました。

皆さん、こういった被害を受けて、初めて重大さを分かってきたのかなと思いました。

今まで何回も、市長さんもフォーラムの時もどうして堤防が出来なかったのかと質問を受けましたが、なかなか住民の人たちが堤防の必要性を感じなかったことと、私もこの活動を始める前は、川から見た町並みの魅力に惹かれていたのですが、これでは危ないのだと段々に感じて、少し堤防のことを考えてきて、いろいろな会議にも出ましたが、やっと堤防が出来ることになって、良かったと思っていました。

「堤防ができるまで」という補償内容についての説明ですが、こういうところの説明は、私、十数年やっていますけれども、これまであまりみたことがなかった。それを住民の方たちに説明して、それぞれの町内会でOKがでたというのは、すごく大きいことだと思いました。

今回の被害の大きさをみて、住民も生命・財産を守ることは大切だと分かってきたと思います。

ただ先ほど邊見さんが言われた通り、7.2mの堤防の高さはどのくらいの高さなのか想像がつかなくて、親水空間をどのように組み合わせるのか、イメージがわかりません。

ところどころの親水空間の考え方は、私も市長と同じく必要だと思いました。

一番思ったことは、文化センターと市立病院の建物が、あのまま壊されるのかと思ったときに、あの場所こそ高い建物も必要だと思いました。被害の大きかったところでもあるので、鎮魂の場として、どのような形かで、津波の色々なことを想像できるようなセンターにならないか、と思いました。

いざとなったとき市立病院などはヘリポートとしての機能もあるのではないかと、思いました。

これから、どのような堤防であり、どのような親水空間を考えながら進めていったら良いのかということ、会員の皆さんと話しあってみたいと思っています。

プロムナードは、最初からルートをつなげましょうということだったので、散策路というよりも、前にも話しましたが、サイクリングロードを兼ね備えた、自由に自転車の乗り降り出来るような散策路なら、もっと利活用出来るのではないかと、思いました。

震災後、日和山から中瀬を見たとき、凄くショックを受けました。震災で、こんなに小さい中瀬になってしまったのかしらと。

昔は、中瀬の桜は凄く綺麗だった。周辺を何かの植栽で囲むような中瀬になったら良いのではな

いかと思いました。

湊町に関して。私は湊町生まれなのですが、石巻は港があって栄えてきたと思います。

今のままでは、港のイメージが全部なくなってしまうのではないかと、どうにかできないものかと思えます。

全部中瀬に集約するよりは、中瀬と湊、結び付けて考えていくのが良いのではないのかと思えました。

**○亀山紘議長** ありがとうございます。

毛利さんは以前も、サイクリングで、自転車、いつでも乗り降りできるようなものを、という意見でしたが、これは実現する可能性は高いと思います。

堤防の上は走れるのですから、またこのプロムナード計画の中で話し合っていきたいと思っています。

中瀬の利用に関して、どうしても石巻の場合右岸ばかりなので、左岸の堤防の活用も大切にしていきたいと思えます。

この後、事務局から何回位この会議を開くかお知らせ出来ると思えますが、是非懇談会の中で、また話をさせて頂きたいと思っています。

今日、皆さんからの感想と自分のプロムナード計画に対する想いを話して頂きました。ありがとうございました。

今回特にまとめるということはありませんが、事務局の方で意見をまとめていただいて、今後の懇談会に活かして頂きたいと思えます。

せっかくですのでオブザーバーの皆さんから何か意見ありましたら、お願い致します。

**○佐々木靖彦オブザーバー** 私も中瀬をどうするのかなと思ながらうかがっておりました。

**○相澤義光オブザーバー** 港湾につきましては、雲雀野の海岸部分も港湾事務所の所管でございますので、堤防の今の計画、まだ今は高さだけで、どういう形になるか決まっていますが、ご意見を色々と踏まえながら、考えていきたいと思っています。

内港の部分も、北上川下流河川事務所さんと色々と打合せさせて頂いておりますが、このプロムナード計画を参考に、復旧の方向を検討させて頂きたいと思っております。

**○佐藤克英オブザーバー** 先ほど市長さんからお話ありましたが、私どもは災害復旧事業でありますので、原則的な断面は単調なものになってしまうのですが、そこでこのプロムナード計画を、策定して頂いて、復興に優れた計画ということで、是非それが実現できるように、市当局のほうでも財源確保していただいて、私共の災害復旧と、市のプロムナード計画が連携して、すばらしいもの、川を活かしたまちづくりをできるように調整をしていきたいと思えます。

一番最初に工事にかかりますのは、お手元の復旧した堤防が高潮被害を大幅に軽減とある資料の2ページにあります。地盤沈下で海や川から水が浸透して、浸水しやすくなった、そういった浸水を防止するためにも、護岸工事にまっさきに取り掛からなければならないという状況です。その中でも拠点性や変化をつける箇所について、事務局の方と精力的に行いたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

○門傳淳オブザーバー 土木事務所としましては、内海橋の災害復旧、北北上運河の復旧が直接的に関連すると思いますが、これからしっかりと計画調整させて頂きたいと思っています。

それから北北上運河については、松並木が立ち枯れしておりまして、伐採せざるを得ない状況になっております。

その後の取り扱いどうするかということにつきましても、こういった場でも意見をいただきながら、どのように対応すべきか、検討していきたいと思っています。

○亀山紘議長 ありがとうございます。それでは、5の今後の懇談会の進め方について事務局より説明をお願いします。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） たくさんのご意見ありがとうございました。

本日が第1回ということで、プロムナード計画そのものに関しては、年内あるいは年度内には、計画を作り上げていきたいと考えております。年内には、あと3回ほどやらせていただきたいと思っております。

全体の計画は取りまとめとして、策定させていただき、計画が最終的に取りまとめるまでの間も、個別具体については、プロムナード計画の中で、堤防の活かし方など、少しずつ部分的には具体化できるところもでてくると思いますので、途中から平行する形でも、皆さんのご意見を伺いながら、整備に向けた検討をしていきたいと考えております。

今回第1回ということで、再来月辺りには、2度目3度目ということで考えておりますので、宜しくお願いいたします。

○亀山紘議長 今後の懇談会の進め方については、年内に3回程度ということですが、委員の方の熱意によっては、何回でも開くという気持ちでいるようですので、何かその点についてもありますか。よろしいですか。

今後の懇談会の進め方については、新しい石巻の顔にしていく、観光の拠点にしていく、そしてやはり市民が集える場所にするということが基本だと思いますので、是非、今後進め方については、皆さんのご意見を頂きたいのですが、このような進めかたでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

続きまして、次第の（４）その他ですが、委員の皆さんから何かありますか。事務局から何かありますか。オブザーバーから何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○亀山紘議長 これにて議事を終了いたします。本日はご協力ありがとうございます。

今後とも、宜しくお願いいたします。

○木村博英懇談会事務局長（石巻市建設部参事兼河川港湾室長） 閉会を宣す。

午前 12 時 開会